2012/9/5

ワークショップ

「設計工学・システム部門の産学官連携の現状と、当部門が果たすべき役割」参加各位：

■　ラウンドテーブルの論議テーマについてのご案内

設計工学・システム部門産学連携推進委員会

本ワークショップでは、“設計工学・システム分野における産学連携研究”のあり方と、当部門が果たすべき役割について、ご議論頂きたいと考えており、その概略テーマについてお知らせを致します。

議論の流れとしては、まず、産・学・官、それぞれのお立場からの自己認識と相互の他者認識を行い、それらのギャップ（問題点）や課題を明確にします。その上で、設計工学・システム研究におけるあるべき産学連携像を明らかにします。そして、それに向けて、産・学・官がなすべき事、そして当部門が果たす支援の可能性を議論して頂きたいと存じます。具体的な議論のテーマを以下に記しますので、事前にご検討頂ければたいへんありがたく存じます。

１。産学官連携研究に対する現状把握（自己認識、他者認識）

1。1　産、学の各々にとっての目的、成果は？　現状をどの様に捉えるか？

1。2　産、学の各々にとっての実務面での進め方は？　現状をどの様に捉えるか？

1。3　産、学の各々の自己認識に、他者認識を加えての現状把握結果は？

1。4　官の働きについて、自己認識、他者認識における現状をどの様に捉えるか？

２。ギャップ（問題点）認識、課題、あるべき像の明確化

2。1　産、学の各々にとっての目的、成果におけるギャップ（問題点）、課題は何か？

2。2　産、学の各々にとっての実務的な問題点、課題におけるギャップ（問題点）、課題は何か？

2。3　官の働きにおけるギャップ（問題点）、課題は何か？

2。4　ギャップ、課題の解決の基とすべきあるべき像は、産、学、官にとって如何なるものか？

３。今後のあるべき産学官連携研究に向けた課題解決の方策について

3。1　あるべき産学官連携研究に向けて、産、学、官、各々がなすべき事は何か？

3。2　あるべき産学官連携研究に向けて、産、学、官が相互に期待する事は何か？

3。3　あるべき産学官連携研究に向けて、部門として支援できるものは何か？

尚、各テーマに対して、前半の「産学官連携研究の事例調査報告」にて、論議のトリガーとする情報を提供させて頂きます。

以上